

様式1(主な取組)

活動指標名	伝統芸能公演の開催件数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	16	13	28	17	23	13	100.0%	56,816	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、(公財)沖縄県文化振興会が実施した国立劇場おきなわや各市町村との連携によるかりゆし芸能公演23公演に対し補助した。(コロナ感染拡大防止による中止1公演)</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、採択された24団体中1団体が公演の中止を余儀なくされ、17団体の日程の延期が必要となったが、国立劇場おきなわのほか、離島等での公演実施に対して補助することで、伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することができ、若手実演家の育成が図られたことから、順調と判定した。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> インターネットによるチケット販売を開始。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。

○外部環境の変化

・イベントのチケット購入に関しては、インターネットによる購入も普及している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体による販売は継続しつつ、複数のチケット販売方法を確保し、引き続き、あらたな客層の開拓を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、インターネットによるチケット販売を行うことに加え、SNS等を活用した情報発信を強化する。

様式1(主な取組)

活動指標名	入館者数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	508,822	504,894	577,528	156,679	140,000	500,000	24.0%	83,687	大幅遅れ	<p>収集資料を展示する常設展・コレクション展のほか、企画展・特別展を計7回開催した。また、学芸員講座、バックヤードツアー、文化講座等を実施した。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p>
										<p>沖縄の自然や歴史・芸術文化等に関する常設展・コレクション展や、沖縄の海や自然をテーマとした特別展や企画展、世界的にも評価の高い県出身写真家の展覧会等を実施したほか、関連イベントや学芸員講座など多彩な催事に取り組んだ。しかし、コロナ禍で臨時休館が約4ヶ月にも及ぶなど大きな影響を受け、企画展・特別展は9回の計画に対し7回の開催実績となったこと等により、目標値からは大幅に落ち込む結果となった。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 施設や展示設備の修繕等を計画的に実施し、県民等の利用しやすい環境を整える。 指定管理者と連携し、県内容、特に、県内小中高、学校関係者の利用促進を図るため、周知広報に努めるとともに、コロナ禍に鑑みWEBを活用した動画配信等の情報発信に取り組む。 						<ul style="list-style-type: none"> 当館の基本的運営に係る施設や展示設備等について、緊急性等を勘案しながら設備の更新、不具合箇所の修繕等を実施した。 指定管理者と適宜連携して、当館独自の感染拡大予防ガイドラインの随時更新を行い、来館者が安全安心に楽しめる環境づくりに取り組んだ。 開催中の企画展等について解説動画の製作配信、学芸員講座等のリアルタイム配信などWebを活用した情報発信を強化するとともに、展示室内での個人スマホ利用による展示作品の音声解説等を開始した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・開館から14年が経過し、施設や展示設備等の経年劣化が見られる。

○外部環境の変化

- ・令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が収まらず、収束次期が不透明なため、県外・国外からの旅行者増等による大幅な利用者の回復が見通せない。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・施設や展示設備の劣化度を把握し、計画的な修繕、更新を行う必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、次年度も引き続き、県内客の利用増に向けての広報強化、コロナ禍収束後の県外国外からの集客を見据えた情報発信を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・施設や展示設備の修繕等を計画的に実施し、県民等の利用しやすい環境を整える。
- ・指定管理者と連携し、県内客、特に、県内小中高、学校関係者の利用促進を図るため、周知広報に努めるとともに、コロナ禍に鑑みWEBを活用した動画配信等の情報発信に取り組む。

様式1(主な取組)

活動指標名					R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)			
文化発信交流拠点の整備										グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点の整備に向けて、都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務に取り組んだ。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行っている。また、民間も含めた県内文化施設の稼働率調査を行い、施設のあり方等について検討しており、着実に取組を推進している。
実績値		実施計画(案)策定着手	実施計画(案)の策定	関係団体との意見交換	関係団体との意見交換	県内施設の稼働率調査	関係団体との意見交換	75.0%	0 概ね順調	
活動指標名					R3年度					
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
活動指標名					R3年度					
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。 						<ul style="list-style-type: none"> 県内文化施設の稼働率調査を行い、実施計画(案)の見直しに向け検討を行っている。引き続き関係機関との意見交換を行い、その内容を踏まえて施設のあり方等を検討する。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。

・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市である。

・関係団体との意見交換において、状況の変化に対応した計画の変更等が必要ではとの意見あり。

○外部環境の変化

・平成30年度には琉球新報ホール、令和3年11月には那覇市民芸術劇場なは一とが整備されるなど、那覇市内における劇場機能が強化されている。また、令和4年4月には糸満市にも文化施設が新たに開館し、県内文化施設の稼働率の向上が課題である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・引き続き、浦添市をはじめとする関係機関と調整を進めるとともに、外部環境の変化も考慮しながら、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
	設置・運営	運営	運営	運営	運営	運営	100.0%	85,888	順調	平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。	
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										「しまくとぅば普及センター」により、講師養成講座、講師派遣、しまくとぅば検定を実施し、しまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。	
活動指標名					R3年度						
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
(2) これまでの改善案の反映状況											
令和3年度 of 取組改善案						反映状況					
・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。						・しまくとぅば講師養成講座については、本島北部における中級講座（2期生）に加え、八重山において初級講座（3期生）を開催した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響があるなか、県内の学校、しまくとぅば普及団体と連携し、しまくとぅばの授業やしまくとぅばに慣れ親しむための取組みなどを行い、地域に応じた取組みを行うことができた。 ・しまくとぅば検定については、中南部言葉編として5級から9級を実施したほか、国頭言葉編、八重山言葉編、与那国言葉編のそれぞれ9級を新たに実施した。					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・内閣府による沖縄振興計画の総点検結果である「沖縄振興の現状と課題」においては、「主な取組の評価(⑥文化関連)」のなかで、「しまくとぅばの保存・普及・継承に向けたソフト交付金によるしまくとぅば普及センターの設置・運営等の取組が進められているものの、しまくとぅばをあいさつ程度以上、話す人の割合に改善が見られないことから、これらの取組については改善・見直しの検討が必要であると考えられる。」との指摘がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。

・「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅば」を挨拶程度以上、話す人の割合について、令和3年度調査結果では過去最低値となった。一方で、しまくとぅばに親しみを感じている人やしまくとぅばは必要であると思う人の割合、しまくとぅばへの理解度は高い割合で推移している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・しまくとぅば普及センターの設置・運営については、しまくとぅば講師養成講座開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組みに重点化し、それを総括する窓口機能に注力するなどの取組みの見直しを行い、県民がしまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋げ、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

4 取組の改善案 (Action)

・令和3年度に行ったしまくとぅばに関する県民意識調査により、県民がどのような機会にしまくとぅばに触れているのかや、市町村、小・中学校、民間団体等がしまくとぅばについてどのような取組みを行っているのか等を把握し、しまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋がる取組みを令和4年度に検討する新たなしまくとぅば普及推進計画に盛り込み、実施することにより、しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合の向上を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名	県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	16件	19件	21件	89件	63件	22件	100.0%	12,547	順調	<p>県内文化芸術関係団体等を対象に、文化芸術活動の持続化に向けた課題解決の取組等を公募し、採択された27件の取組に対して補助を行い、文化専門人材によるハンズオン支援を行った。また、アーティスト等による文化芸術資源を活用した動画制作・配信の取組についても公募を行い、36件の取組に対して補助を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>令和3年度においては、事業公募、審査の結果、採択件数は63件となり、活動指標の計画値22件を上回ったことから進捗状況は順調となった。</p> <p>また、本事業を実施することで、県内団体による文化活動の実施件数や享受者の増加、他分野との連携促進などが図られ、文化芸術活動を支える環境の形成が推進された。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 採択された事業者に対して、「業種別ガイドライン」等に基づきイベントを実施するように委託を行っている文化振興会と連携しながら事業の進捗管理をこまめに行うとともに、事業の周知のためのシンポジウムや相談会については、県内の感染状況やイベントの性質、医療提供体制への影響などを勘案し、必要に応じて、ホームページへの動画掲載等の代替案を検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> 補助事業者に対しては、交付申請時の補助事業計画書において、時短等要請時の代替案まで検討していただくとともに、各補助事業が始まってからは、文化振興会と定例会議を毎月開催して、各補助事業の進捗管理等を行った。 また、毎月開催している相談会については、必要に応じてオンラインでの開催に切り替えるとともに、事業周知のためのシンポジウムの代替として、採択された団体や個人の取組状況をWEBサイト等各種媒体を通じて発信し、文化芸術資源の活用についての認知度の向上に向けた情報発信を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・本事業は、本県の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図るため、補助事業者に対する文化専門人材による伴走型のハンズオン支援(補助事業の目的達成に向けた課題の分析や解決案の提示等)を行っており、引き続き、文化芸術団体等を育成するための専門的な知識、経験等に基づく支援が行えるよう人材を確保していく必要がある。

○外部環境の変化

・感染症拡大防止のため、人の集まるイベントの自粛、国内での移動の自粛、海外渡航の自粛等が余儀なくされている。そのため、本補助事業の中で実施するイベントや、視察、県外でのイベント等の開催が危ぶまれる状況となっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・引き続き、文化芸術団体等を育成するための専門的な知識、経験等に基づく支援が行える人材を確保していく必要がある。

・申請された事業内容がコロナ禍の環境下においても実現可能性が高いか検討する必要がある。また、採択された事業においても、進捗等を確認し、事業の円滑な実施につながるよう慎重に見守る必要がある。

・さらに、このような環境下においても文化芸術活動が停滞しないよう、文化芸術活動の持続的発展を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き、文化芸術団体等を育成するための専門的な知識、経験等に基づく支援が行えるよう文化専門人材を確保していく。

・また、コロナ禍の環境下においても文化芸術活動が停滞しないよう、進捗等を確認し、事業の円滑な実施につながるよう補助事業者に対するハンズオン支援を行うとともに、文化芸術の振興に関する調査及びプログラムを構築することにより、県民が気軽に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動者に活動の場を提供する。

様式1(主な取組)

活動指標名	(公財)沖縄県文化振興会が実施する文化事業等に対する補助				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	補助	補助	補助	補助	補助	補助	100.0%	51,134	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、(公財)沖縄県文化振興会が実施した国立劇場おきなわや各市町村との連携によるかりゆし芸能公演23公演に対し補助した。(コロナ感染拡大防止による中止1公演)</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、採択された24団体中1団体が公演の中止を余儀なくされ、17団体の日程の延期が必要となったが、国立劇場おきなわのほか、離島等での公演実施に対して補助することで、伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することができ、若手実演家の育成が図られたことから、順調と判定した。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<p>・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。</p>						<p>・インターネットによるチケット販売を開始。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。

○外部環境の変化

・イベントのチケット購入については、インターネットによる購入も普及している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体による販売は継続しつつ、複数のチケット販売方法を確保し、引き続き、あらたな客層の開拓を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、インターネットによるチケット販売を行うことに加え、SNS等を活用した情報発信を強化する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	② 社会全体で文化活動を支える基盤の構築
			施策の小項目名	—
主な取組	地域の文化継承・発信支援事業			
対応する主な課題	③地域の文化は、文化関係団体をはじめ、県民、NPO・ボランティア、企業など多様な主体の参画により支えられ発展していくことから、文化関係機関相互が連携し情報交換等を行いながら、文化の保全・継承・発展に対する県民の関心や意識を高め、沖縄社会全体で文化活動を支える環境を構築することが求められる。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
普段、祭事等でしか披露されていない地域の伝統芸能等を国立劇場おきなわに集め、舞台公演として県民へ披露する「特選 沖縄の伝統芸能」を開催するとともに、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演（シンポジウム等）を開催する。		3回以上シンポジウム				
		各地域でのシンポジウム等の開催				
実施主体	県、文化協会	1回以上公演回数				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】	地域の伝統芸能を集めた公演			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 地域の文化継承・発信支援事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： -	
県単等	委託	-	9,311	8,723	10,900	-	-		OR4年度： -	
予算事業名 地域伝統文化の継承・発信支援事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回 地域伝統芸能保存会への聞き取り調査を行った。(8地域程度)	
県単等	委託	-	-	-	-	7,414	6,725	県単等	OR4年度： シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回を予定している。	

様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	4	2	1	3	3	100.0%	7,414	順調	<p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとうば等の普及・継承についての座談会を3回開催した。また地域の祭等で披露される伝統芸能5団体を集め国立劇場おきなわで「第8回特選 沖縄の伝統芸能」として上演した。その他県内8地域の伝統芸能保存会等の活動状況を調査しまとめた。</p>
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	1回	1回	0回	1	1	100.0%			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。 地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でシンポジウムを座談会に変えて行い、Web発信することで遠方からもアクセスがあるなど、これまでとは違った方面にアピールすることができた。「特選 沖縄の伝統芸能」では短時間にお客様が殺到することから、物販を中止し、席もすべて指定席にするなど工夫した。調査事業でも各地域でそれぞれ課題が出てきた。 地域の伝統芸能等に関する講演会については、コロナ禍により開催できていない。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。

・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

・コロナ禍により、各種のイベント中止が相次いでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。

・地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。